

水虫は現代病!?

～夏だけの季節病ではありません～



日本の水虫患者は約2500万人と推定されています。つまり5人に1人は水虫患者というわけです。「水虫」は江戸時代にもあったようですが、増え始めたのは第二次世界大戦以後。西欧化が進み1日中靴を履く人が増えたことによる文明病といわれています。

「水虫=おじさん」というイメージがありますが、最近ではライフスタイルの変化により若い男性にも、またブーツやストッキングなどを履き続ける機会が増えたため、女性にも増えてきています。(男性:女性=1:1)

まさに、現代病といってよい病気ですね。

水虫ってどんな病気?

水虫とは、白癬菌という真菌(カビ)が原因で起こる皮膚感染症。白癬菌は温度が15℃以上、湿度が70%以上の高温多湿の環境になると活動が活発になって症状を悪化させます。そのため、梅雨時から夏にかけて自覚症状がありますが、きちんと治療をしなければ冬の間は潜伏して、また次の梅雨時に活発化するのです。

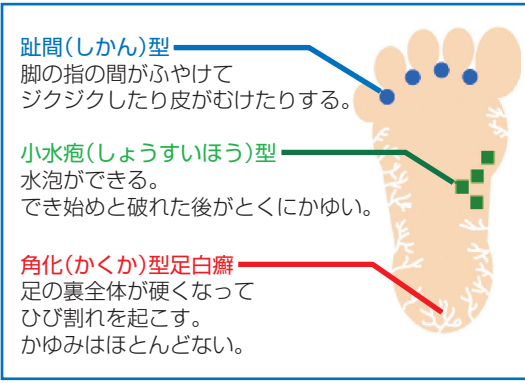
水虫はかゆいとは限りません!

症状によってジクジク【趾間型】、【小水疱型】、カサカサ【角化型】に分けられます。かゆくないからと安心してはいけません。

水虫は「家族病」

水虫は家庭内での感染が多く、水虫患者の45%は同居家族にも水虫患者がいます。

また、同居家族における水虫患者の約50%が配偶者です(2003年 バイエル薬品調べ)。治療には家族全員で取り組むことが必要です。



水虫の住みか は皮膚の角質層

白癬菌は、皮膚の一番外側にある角質層のなかに含まれているタンパク質、「ケラチン」を栄養源にしています。

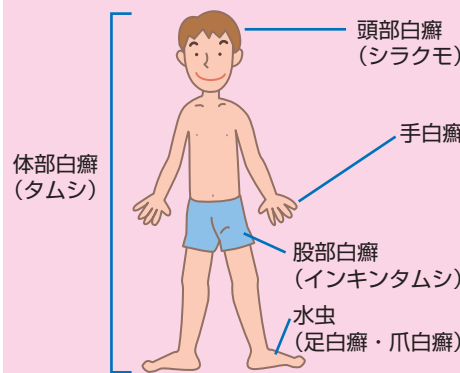
この角質層は人の皮膚のいたるところにあるので、どこに水虫が住みついていても不思議はありませんが、他の体の部分では角質層が1mmもないのに比べて、足の裏には数mmもの角質層が!足裏は白癬菌が住みかにするには最適なのです。なかでも主にケラチンでできている爪に入り込み、爪白癬を起こすと厄介!

厚い爪におおわれて塗り薬がききにくく、栄養が豊富にある場所なのでなかなか菌が消えてくれないのです。

※爪白癬には内服薬での治療を行う必要があります。



部位によって違う白癬の名前



水虫になりやすいのは?

白癬菌が皮膚に付いたからといって必ず水虫になるわけではありません。皮膚に付いたカビが洗い流されずに高温多湿の条件を得た場合に繁殖を始めるのです。

よくある水虫の感染経路

- スリッパ(とくにWC) ●バスマット
- 床 ●畳 など



24時間以内に足を清潔にして乾燥を心がければ白癬菌は生きていけませんので、角質層に潜り込む前にやっつけてしまえばいいのです。